

保健医療計画(進行管理対象事業)の進捗状況について

1 健康づくりの推進

○ 健康的な生活習慣の確立

(1) 栄養・食生活の改善

食生活の改善に向け栄養成分、食事バランスなど、毎年テーマを変えながら栄養教室を実施してきた。生活習慣病予防などライフステージに応じたテーマにより、食事バランスや食事量等の知識と基本的な調理技術を伝えることで、参加者の健康づくりへの意識を高めることができた。(実績報告 P. 107 事業番号 1-1-1)

(2) 歯と口腔の健康

従来 10 年間隔であった受診間隔を、28 年度より 30 歳、35 歳、40 歳、45 歳、50 歳、55 歳、60 歳、65 歳、70 歳に変更し、地区歯科医師会への委託により 8 月 1 日から 12 月 28 日まで実施した。その結果受診者数が増加した。更に平成 30 年度は対象年齢に 76 歳、81 歳を加えて拡大し、受診期間も 1 月 31 日まで延長することで、受診率の向上を図る。(実績報告 P. 108 事業番号 1-1-5)

○ 生活習慣病対策

(1) 生活習慣病の予防

運動習慣の定着や食生活の改善など、生活習慣病予防の啓発を行うため健康教室を開催している。対象やテーマに変化をつけて実施することで、子育て世代からシニア世代まで幅広い年齢層の参加につながっている。今後は生活習慣病予防に無関心な層への働きかけについても工夫していく必要がある。(実績報告 P. 108 事業番号 1-2-1)

(2) 生活習慣病の早期発見

25 年度から 28 年度において目標値まで到達していないが、受診率向上のため工夫を行っている。特定健康診査では、受診券送付時の封筒の大きさや案内冊子のフルカラー化により、わかりやすい案内を心掛け、特定保健指導では、電話による利用勧奨を行った。今後も受診の必要性や仕方などを丁寧に周知することで、目標達成に努める。(実績報告 P. 109 事業番号 1-2-2)

○ がん対策

(1) がん検診受診率の向上

がん検診についての啓発、受診勧奨とともに、受診しやすい環境整備を推進し、がん検診受診率の向上を図っている。乳がん月間に 29 年度は東京都と共催し「ピンクリボン in 東京・文京区 2017～乳がん月間キャンペーン～」を区民ひろばにおいて実施した。受診率は、乳がん・子宮がん・大腸がん検診で受診率は減少したが、胃がん検診は、内視鏡検査を新たに導入したことで受診率は大幅に増加した。今後は、がん検診の精度管理を行う上で、シス

テムを導入し、受診履歴などを管理し、効果的な受診率の向上に向けた対策を行う。(実績報告 P.110 事業番号 1-3-1)

○ 母子の健康づくり

(1) 妊娠・出産への支援

経済的負担を軽減し安全な出産に導くため、また歯周疾患のリスクが高まる妊娠中に口腔衛生の向上を図るため、妊婦健康診査と妊婦歯周疾患検診を行っている。25年度から5年間で、妊婦健康診査の受診者数と妊婦歯周疾患検診はともに増加している。また27年度より開始したネウボラ面接(妊婦全数面接)は実施件数が増加し、家庭の状況に応じた情報提供を妊娠初期から行えるようになり、早期からの支援体制の充実につながっている。(実績報告 P.111 事業番号 1-4-1)

(2) 新生児期からの育児支援

生後4か月までの乳児がいる家庭を訪問し、母子の健康管理や子育て等に関する情報提供を行っている。ネウボラ面接(妊婦全数面接)や母親学級・両親学級などを活用した周知により、乳児家庭への訪問数及び訪問率は伸びており、支援を要する家庭の把握と関係機関と連携した支援の実施につながっている。(実績報告 P.112 事業番号 1-4-2)

(3) 子どもの健康の確保

4か月から3歳までの乳幼児を対象に発育・発達の状態を確認する健康診査を行っている。各健診の受診率は概ね目標値に到達しており、疾病を早期に発見し適切な治療・療育へつなぐとともに、子育ての困難感を抱える家庭の把握と支援を行っている。(実績報告 P.113 事業番号 1-4-3)

○ 高齢者の健康づくり

(1) 介護予防事業の充実

すべての高齢者が元気な体を維持し、要支援や要介護状態になることを予防するため、介護予防事業を行っている。文の京介護予防体操では、会場の増設や二部制の実施をすすめた結果、平成29年度の参加者は平成25年度から倍増の1,000人を超えるまでとなり、多くの区民に運動習慣が定着してきている。このほか、各種教室事業、介護予防展や講演会等により運動・栄養・口腔・認知症予防・社会参加の重要性について啓発を行った。今後も、これらの取組が相互に関係して健康維持につながることを伝え、引き続き介護予防の普及啓発を図っていく。(実績報告 P.114 事業番号 1-5-3)

○ 食育の推進

(1) 食を通じたコミュニケーション

区民が望ましい食習慣を実践できるよう、食育を推進するため食のリーダーとなる食育サポーターを育成している。講習会で食や栄養に関する知識・技術を身につけたサポーターは、イベント等における掲示物の作成・発表などを通じて区民に情報発信を行った。ま

た、複数年度の講習会参加者が交流し、継続して望ましい食習慣を実践するための機会もあった。今後もサポーター数を増やし内容を充実させていく。(実績報告 P. 115 事業番号 1-6-2)

2 地域医療の推進と療養支援

○ 地域医療の推進

(1) 地域医療連携の充実

地区三師会、区内大学病院、その他関係医療機関からなる協議会、検討部会を開催し、地域医療連携について検討した。在宅医療検討部会においては「地域における医療・介護の連携に関する現状と課題、解決に向けての取組み(案)」が提案された。28年度、かかりつけ医・在宅療養相談窓口を小石川医師会に開設した。29年度、「知って安心『退院までの準備ガイドブック』」を作成し、区内の急性期病院にて配布している。今後も、協議会、検討部会での協議・検討を通じて、地域医療連携の充実を図っていく。(実績報告 P. 116 事業番号 2-1-1)

○ 災害時医療の確保

(1) 災害時医療の確保

年次計画に基づき災害用医療資器材及び医薬品を更新し、新たな品目を追加で配備した。また、25年度に策定した災害時における医療救護活動マニュアルに基づいた訓練の実施や、三師会を対象にした区主催のトリアージ研修会を27年度より開催し、医療救護活動に従事する医師等のスキルアップを図った。今後も医療資器材等を適正に配備し、訓練等により検証を行い、災害発生時に迅速かつ円滑に医療救護活動を行うことができるよう、関係機関との連携強化に取り組む。(実績報告 P. 117 事業番号 2-2-1)

(2) 要医療援護者の災害時の支援

在宅人工呼吸器使用者の不測の事態における安全確保のため、患者ごとに「災害時個別支援計画」を策定し、災害時の支援体制を整えている。対象者の把握については、介護保険課、障害福祉課と連携し、新規ケースの把握ができた。また計画策定については、平成29年度は新規2名、モニタリング3名合わせて5名の個別支援計画を作成した。5年間で7名の計画を作成した。(実績報告 P. 117 事業番号 2-2-2)

○ 精神保健医療対策

(1) 精神障害者の地域生活支援体制の充実

精神障害者の病状悪化、治療中断及び怠薬を予防するため、地域活動支援センターの支援員が自宅訪問や通院同行をしている。支援が必要な精神障害者に対し通院同行や服薬確認などの支援を行ってきた。容体の安定などにより支援を終了する者もあり、本事業による一定の効果も表れている。支援困難ケースについては、事業所を含めて事例検討を行い対応していく。(実績報告 P. 118 事業番号 2-3-2)

3 健康安全の確保

○ 健康危機管理体制の強化

(1) 新型インフルエンザ対策の体制整備

新型インフルエンザ等感染症について、発生時のまん延防止対策及び医療体制等を協議するとともに、関係機関間の連携体制を構築するために、25年度から「文京区新型インフルエンザ等感染症医療体制検討会議」を設置した。29年度も引き続き会議を実施し、情報共有等を行った。(実績報告 P. 118 事業番号 3-1-2)

○ 感染症対策

(1) 予防接種率の向上

定期予防接種について接種率の向上を図るため適切な情報の提供や周知を行っている。MR（麻しん・風しん混合）ワクチンの予防接種については、MR1期（満12か月～満24か月に接種）の接種率は目標を上回っているが、MR2期（5歳以上7歳未満で小学校就学前の1年間で接種）は目標値を下回っている。引き続き、予診票の個別発送、保育園・幼稚園を通じたチラシの配布等を行い、接種勧奨に努める。子宮頸がん予防ワクチンについては、25年6月に積極的な接種勧奨が差し控えられて以降、接種者数は大きく減少している。勧奨の再開については未定。(実績報告 P. 119 事業番号 3-2-4)